

(19) 日本国特許庁(JP)

(12) 公開特許公報(A)

(11) 特許出願公開番号

特開2013-75673

(P2013-75673A)

(43) 公開日 平成25年4月25日(2013.4.25)

(51) Int.Cl.	F 1	テーマコード (参考)
B 6 5 D 8/06 (2006.01)	B 6 5 D 8/06 A	3 E 0 6 1
B 6 5 D 77/04 (2006.01)	B 6 5 D 77/04 A	3 E 0 6 7

審査請求 未請求 請求項の数 1 O L (全 8 頁)

(21) 出願番号	特願2011-215837 (P2011-215837)	(71) 出願人	000006909
(22) 出願日	平成23年9月30日 (2011. 9. 30)		株式会社吉野工業所
			東京都江東区大島 3 丁目 2 番 6 号
		(74) 代理人	100064908
			弁理士 志賀 正武
		(74) 代理人	100094400
			弁理士 鈴木 三義
		(74) 代理人	100106909
			弁理士 棚井 澄雄
		(74) 代理人	100140718
			弁理士 仁内 宏紀
		(72) 発明者	水嶋 博
			東京都江東区大島 3 丁目 2 番 6 号 株式会
			社吉野工業所内
		F ターム (参考)	3E061 AA26 AB09 DA02 DA12 DB14
			最終頁に続く

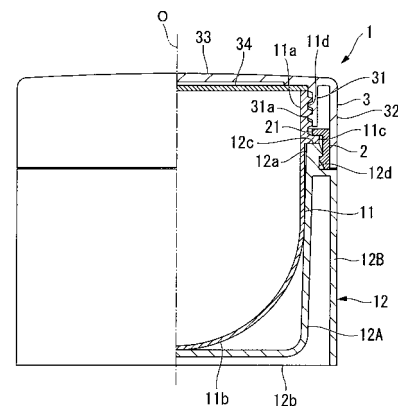
(54) 【発明の名称】 二重容器

(57) 【要約】

【課題】 内容器を外容器に対して着脱するに際し、内容器の外周部が、加えられた外力により変形するのを防ぎ、内容器を外容器に対して容易に着脱することができる。

【解決手段】 内容器 1 1 の口部 1 1 a には径方向の外側に向けて突出し外容器 1 2 の口部 1 2 a の開口端縁 1 2 c 上に載置される第 1 係合突片 1 1 c が周方向に間隔をあけて複数形成され、外容器 1 2 の口部 1 2 a には、径方向の内側に向けて突出し第 1 係合突片 1 1 c を外容器 1 2 の口部 1 2 a の開口端縁 1 2 c との間で挟み込む第 2 係合突片 2 1 を有するロックリング 2 が、軸方向の移動が規制された状態で周方向に回転自在に嵌合され、内容器 1 1 および外容器 1 2 に対するロックリング 2 の回転移動に伴い、第 2 係合突片 2 1 と外容器 1 2 の口部 1 2 a の開口端縁 1 2 c とによる第 1 係合突片 1 1 c の挟み込み、およびその解除が切替えられるように構成された二重容器 1 を提供する。

【選択図】 図 1



【特許請求の範囲】

【請求項 1】

内容物が収容される内容器と、该内容器を離脱自在に収納した外容器と、を備える二重容器であって、

前記内容器の口部には、径方向の外側に向けて突出し前記外容器の口部の開口端縁上に載置される第 1 係合突片が周方向に間隔をあけて複数形成され、

前記外容器の口部には、径方向の内側に向けて突出し前記第 1 係合突片を該外容器の口部の開口端縁との間で挟み込む第 2 係合突片を有するロックリングが、軸方向の移動が規制された状態で周方向に回転自在に嵌合され、

前記内容器および外容器に対する前記ロックリングの回転移動に伴い、前記第 2 係合突片と前記外容器の口部の開口端縁とによる前記第 1 係合突片の挟み込み、およびその解除が切替えられるように構成されていることを特徴とする二重容器。

【発明の詳細な説明】

【技術分野】

【0001】

本発明は、内容器と外容器とを組み合わせた二重容器に関するものである。

【背景技術】

【0002】

従来から、内容物が収容される内容器と、该内容器を離脱自在に収納した外容器と、を備える二重容器が知られている。

この種の二重容器においては、内容器を外容器に対して着脱する際に、内容器の外周部が、加えられた外力により変形することによって、内容器を外容器に容易に着脱することができなくなる場合があった。

【0003】

そこで、このような問題を解決する手段として、例えば下記特許文献 1 に示されるような、内容器に、その外周部から垂下され、径方向の外側の押圧面が押圧されることで上端を支点にして径方向の内側に向けて回転する押圧部が設けられる一方、外容器には、該押圧部が離脱自在に係止される被係止部が設けられた構成が知られている。

この二重容器では、内容器を外容器に対して着脱するに際し、内容器の押圧部を径方向に弾性変位させることで、該押圧部が外容器の被係止部に対して係脱されるようになって

【先行技術文献】

【特許文献】

【0004】

【特許文献 1】特開 2010-195484 号公報

【発明の概要】

【発明が解決しようとする課題】

【0005】

しかしながら、従来の二重容器では、内容器を外容器に対して着脱するに際し、内容器の外周部が、加えられた外力により変形するのを防ぐことに対して改善の余地があった。

【0006】

本発明は、このような事情に鑑みてなされたものであって、内容器を外容器に対して着脱するに際し、内容器の外周部が、加えられた外力により変形するのを防ぎ、内容器を外容器に対して容易に着脱することができる二重容器を提供することを目的とする。

【課題を解決するための手段】

【0007】

上記の目的を達成するために、この発明は以下の手段を提供している。

本発明に係る二重容器は、内容物が収容される内容器と、该内容器を離脱自在に収納した外容器と、を備える二重容器であって、前記内容器の口部には、径方向の外側に向けて突出し前記外容器の口部の開口端縁上に載置される第 1 係合突片が周方向に間隔をあけて

10

20

30

40

50

複数形成され、前記外容器の口部には、径方向の内側に向けて突出し前記第1係合突片を該外容器の口部の開口端縁との間で挟み込む第2係合突片を有するロックリングが、軸方向の移動が規制された状態で周方向に回転自在に嵌合され、前記内容器および外容器に対する前記ロックリングの回転移動に伴い、前記第2係合突片と前記外容器の口部の開口端縁とによる前記第1係合突片の挟み込み、およびその解除が切替えられるように構成されていることを特徴としている。

【0008】

本発明に係る二重容器によれば、ロックリングの第2係合突片と外容器の開口端縁とが内容器の第1係合突片を挟み込んだ状態では、内容器および外容器を相対的に軸方向に離間移動させることができず、内容器が外容器に対して固定される。

10

そして、外容器内の内容器を取り外す際には、まず、ロックリングを内容器および外容器に対して回転させることにより、第2係合突片と外容器の開口端縁とによる第1係合突片の挟み込みが解除され、内容器および外容器を相対的に軸方向に離間移動させることができ、内容器を外容器内から取り外すことができる。

【0009】

以上のように、内容器を外容器に着脱するに際し、例えば内容器を押圧する等しなくても、単にロックリングを内容器および外容器に対して回転移動させればよいので、内容器が変形して例えばその外周面が外容器の内周面に圧接すること等を防ぐことが可能になり、内容器を外容器に対して容易に着脱することができる。

20

【0010】

また、内容器を着脱するに際し、ロックリングを外容器から離脱させずに済むため、使用性を向上させることができる。例えば、ロックリングが外容器に螺着され、当該ロックリングが周方向の全周に亘る環状の第2係合突片を有する場合は、ロックリングを外容器から取り外した後に、内容器を取り出すという操作が必要になる。しかし、本発明の場合には、ロックリングを外容器から取り外すことなく、且つ、螺着されるネジ式の場合に比べて、内容器と外容器との係合解除に必要な回転量も少なくすることができる。

【発明の効果】

【0011】

本発明に係る二重容器によれば、内容器を外容器に対して着脱するに際し、内容器の外周部が、加えられた外力により変形するのを防ぎ、内容器を外容器に対して容易に着脱することができる。

30

【図面の簡単な説明】

【0012】

【図1】本発明の実施形態を説明するための二重容器の半断面図であって、図5に示すA-A線断面図である。

【図2】図1の二重容器の内容器が外容器から取り外された状態を示した半断面図である。

【図3】図2に示す内容器の平面図である。

【図4】図1の二重容器においてオーバーキャップを取り外した状態を示す半断面図であって、図5に示すB-B線断面図である。

40

【図5】図4に示す二重容器の平面図であって、ロックリングによって内容器の軸方向の移動が規制された状態の図である。

【図6】図4に示す二重容器の平面図であって、ロックリングによる内容器の軸方向の移動の規制が解除された状態の図である。

【発明を実施するための形態】

【0013】

以下、本発明に係る二重容器の実施形態について図面を参照して説明する。

【0014】

図1および図2に示すように、本実施形態の二重容器1は、内容物が収容される内容器11と、内容器11を離脱自在に収納した外容器12と、を備えるとともに、外容器12

50

内に収納した内容器 1 1 の離脱を防止するロックリング 2 が外容器 1 2 に被着され、内容器 1 1 の口部 1 1 a に装着されるオーバーキャップ 3 が設けられた構成となっている。

内容器 1 1 および外容器 1 2 は、それぞれ有底筒状に形成され、各中心軸線が共通軸上に位置するように配設されている。以下、この共通軸を中心軸 O といい、中心軸 O 方向に沿って口部 1 1 a、1 2 a 側を上側といい、底部 1 1 b、1 2 b 側を下側といい、また中心軸 O に直交する方向を径方向といい、中心軸 O 回りに周回する方向を周方向という。

【0015】

内容器 1 1 の口部 1 1 a には、径方向の外側に向けて突出し外容器 1 2 の口部 1 2 a の開口端縁 1 2 c 上に載置される第 1 係合突片 1 1 c が周方向に間隔をあけて複数形成されている（図 3 参照）。口部 1 1 a のうち第 1 係合突片 1 1 c より上側に位置する部分の外周部分には、口部 1 1 a の開口を塞ぐ薄肉キャップ 1 3、またはオーバーキャップ 3 が被着される雄ねじ部 1 1 d が形成されている。薄肉キャップ 1 3 は、例えば外容器 1 2 に収納される前の内容器 1 1 に装着され、外容器 1 2 に内容器 1 1 が収納される際に取り外される。

また、内容器 1 1 の底部 1 1 b は、下方に向けて膨出するすり鉢状（半球状）に形成されている。

【0016】

外容器 1 2 の口部 1 2 a には、径方向の外側に突出し下方に向けて延在し、該外容器 1 2 のうち口部 1 2 a より下方に位置する部分（内筒 1 2 A）を径方向の外側から囲繞する外筒 1 2 B が配設されている。

【0017】

図 1 および図 4 に示すように、外容器 1 2 の口部 1 2 a には、外周面にロックリング 2 をアンダーカット嵌合させる凹溝 1 2 d が周方向に沿って設けられている。

図 2 に示すように、外容器 1 2 の開口端縁 1 2 c 上には、第 1 係合突片 1 1 c に係合する回り止め片 1 2 e が周方向に間隔をあけて複数上方に向けて突設されている。つまり、第 1 係合突片 1 1 c が回り止め片 1 2 e に係合した状態で開口端縁 1 2 c 上に載置され、これにより内容器 1 1 および外容器 1 2 の相対的な周方向への回転移動を規制する回り止めの機能を有している。

【0018】

図 2、図 4～図 6 に示すように、ロックリング 2 は、外容器 1 2 の口部 1 2 a に対してアンダーカット嵌合され、軸方向の相対移動が規制された状態で周方向に回転自在に嵌合されている。ロックリング 2 の上端には、径方向の内側に向けて突出し第 1 係合突片 1 1 c を外容器 1 2 の口部 1 2 a の開口端縁 1 2 c との間で挟み込む第 2 係合突片 2 1 が周方向に間隔をあけて複数形成されている。ここで、周方向に隣り合う第 2 係合突片 2 1、2 1 同士の間には、径方向内側が開放された凹部 2 2 が形成されている。この凹部 2 2 は、第 1 係合突片 1 1 c と同じ形状でこれより僅かに大きな形状に形成されている。

【0019】

そして、二重容器 1 は、内容器 1 1 および外容器 1 2 に対するロックリング 2 の回転移動に伴い、第 2 係合突片 2 1 と外容器 1 2 の口部 1 2 a の開口端縁 1 2 c とによる第 1 係合突片 1 1 c の挟み込み（図 5 に示すロック状態 T）、およびその解除（図 6 に示す解除状態 R）が切替えられるように構成されている。解除状態 R において、第 2 係合突片 2 1 と外容器 1 2 の開口端縁 1 2 c とによる第 1 係合突片 1 1 c の挟み込みが解除され、平面視で第 1 係合突片 1 1 c がロックリング 2 の凹部 2 2 内に位置し、第 1 係合突片 1 1 c の上方が開放された状態になる。

【0020】

図 1 に示すように、オーバーキャップ 3 は、内容器 1 1 に螺着される螺着筒 3 1 と、この螺着筒 3 1 を径方向の外側から囲繞する囲繞筒 3 2 と、これらの両筒 3 1、3 2 を上方から一体に覆う天壁部 3 3 と、を備えている。螺着筒 3 1 の内周面には、内容器 1 1 の口部 1 1 a の雄ねじ部 1 1 d に螺合される雌ねじ部 3 1 a が形成されている。また、天壁部 3 3 の内側には、円盤状のパッキン 3 4 が嵌合されている。このパッキン 3 4 は、外周部

10

20

30

40

50

が内容器 1 1 の口部 1 1 a の上端面に対して密着してシールされ、内容器 1 1 内を密封している。ロックリング 2 は、囲繞筒 3 2 によって覆われている。

【0021】

以上説明した本実施形態による二重容器 1 によれば、以下の作用効果を奏する。

すなわち、上記のように構成された二重容器 1 では、図 1 および図 5 に示すように、ロックリング 2 の第 2 係合突片 2 1 と外容器 1 2 の開口端縁 1 2 c とが内容器 1 1 の第 1 係合突片 1 1 c を挟み込んだ状態において、内容器 1 1 および外容器 1 2 を相対的に軸方向に離間移動させることができず、内容器 1 1 が外容器 1 2 に対して固定される。

【0022】

そして、図 4 および図 6 に示すように、外容器 1 2 内の内容器 1 1 を取り外す際には、まず、オーバーキャップ 3 を内容器 1 1 の口部 1 1 a から取り外した状態において、ロックリング 2 を内容器 1 1 および外容器 1 2 に対して回転させ、平面視で第 1 係合突片 1 1 c がロックリング 2 の凹部 2 2 内に位置させることにより、第 2 係合突片 2 1 と外容器 1 2 の開口端縁 1 2 c とによる第 1 係合突片 1 1 c の挟み込みが解除される。つまり、第 1 係合突片 1 1 c の上方に第 2 係合突片 2 1 が位置しない状態となるので、内容器 1 1 および外容器 1 2 を相対的に軸方向に離間移動させることができ、内容器 1 1 を外容器 1 2 内から抜き出して取り外すことができる。

【0023】

以上のように、内容器 1 1 を外容器 1 2 に着脱するに際し、例えば内容器 1 1 を押圧する等しなくても、単にロックリング 2 を内容器 1 1 および外容器 1 2 に対して回転移動させればよいので、内容器 1 1 が変形して例えばその外周面が外容器 1 2 の内周面に圧接すること等を防ぐことが可能になり、内容器 1 1 を外容器 1 2 に対して容易に着脱することができる。

【0024】

また、例えばロックリングが外容器に螺着され、当該ロックリングが周方向の全周に亘る環状の第 2 係合突片を有する場合には、ロックリングを外容器から取り外した後に、内容器を取り出すという操作が必要になる。これに対して、本実施の形態では、内容器 1 1 を着脱するに際し、ロックリング 2 を外容器 1 2 から離脱させずに済むことから、使用性を向上させることができる。さらに、本実施形態のロックリング 2 では、螺着されるネジ式の場合に比べて、内容器 1 1 と外容器 1 2 との係合解除に必要な回転量も少なくすることができる。

【0025】

また、内容器 1 1 が第 1 係合突片 1 1 c によって、外容器 1 2 の開口端縁 1 2 c に懸架されているため、前記実施形態のように内容器 1 1 単独では使用し難い（机などの上に正立できない）底部が半球状のようなデザインであっても、問題なく使用することができる。

【0026】

なお、本発明の技術範囲は、上記実施形態に限定されるものではなく、本発明の趣旨を逸脱しない範囲において、種々の変更を加えることが可能である。

【0027】

例えば、前記実施形態ではロックリング 2 の第 2 係合突片 2 1 が周方向に全周にわたって間隔をあけて複数形成されているが、複数であることに制限されることはない。例えば、第 2 係合突片 2 1 は少なくとも 1 つあれば良い。但し、第 2 係合突片 2 1 は 1 つよりも複数設ける方が周方向の支持バランスを確保することができる。

また、ロックリング 2 のロック状態と解除状態との間を移動するように、位置決め手段を設けてもよい。

【0028】

また、本実施形態では外容器 1 2 は底部 1 2 b を有する有底筒状の形状としているが、底部が開放されている筒体であっても良い。

さらに、ロックリング 2 は外容器 1 2 の口部 1 2 a に対してアンダーカット嵌合である

10

20

30

40

50

ことに限定されることはない。

さらにまた、本実施形態の二重容器 1 では、オーバーキャップ 3 を備えた構成を例に挙げて説明したが、これに限定されることはなく、このオーバーキャップ 3 を省略した構成のものや、他の形状の蓋部材を設けた構成とすることも可能である。

【0029】

その他、本発明の趣旨を逸脱しない範囲で、上記した実施形態における構成要素を周知の構成要素に置き換えることは適宜可能である。

【符号の説明】

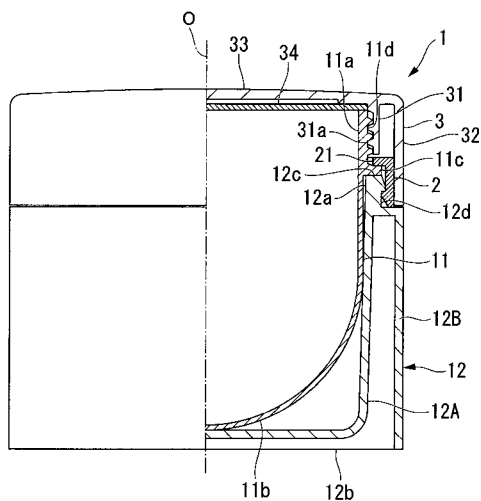
【0030】

- 1 二重容器
- 2 ロックリング
- 3 オーバーキャップ
- 11 内容器
- 11a 口部
- 11c 第 1 係合突片
- 12 外容器
- 12a 口部
- 12c 開口端縁
- 21 第 2 係合突片
- 22 凹部
- O 中心軸

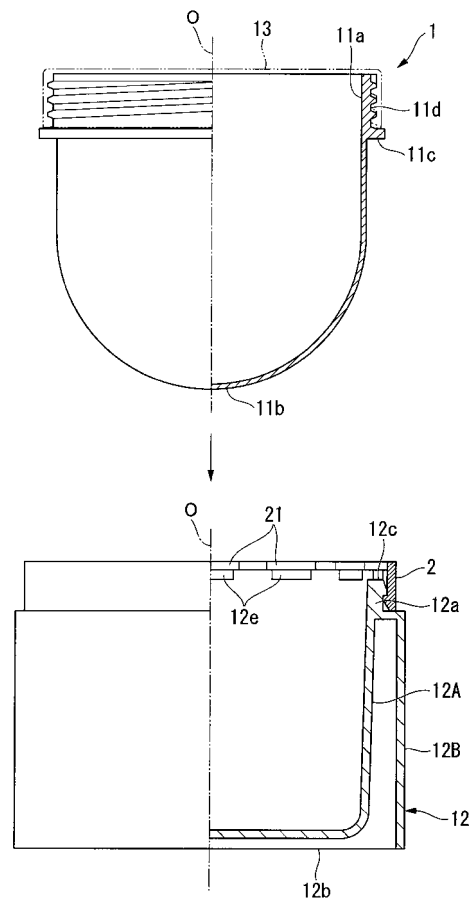
10

20

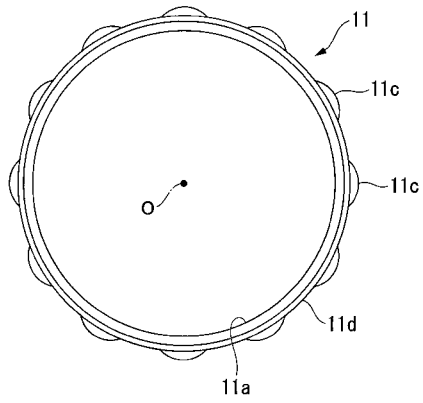
【図 1】



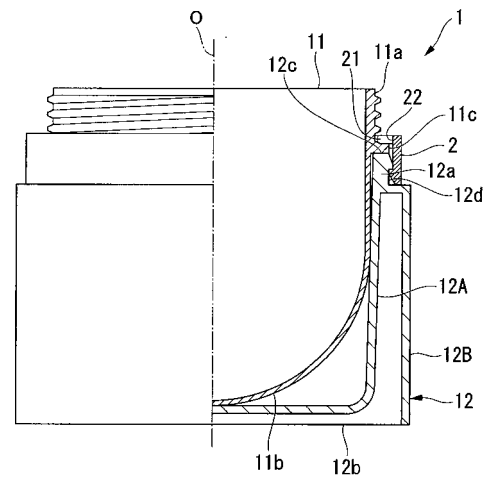
【図 2】



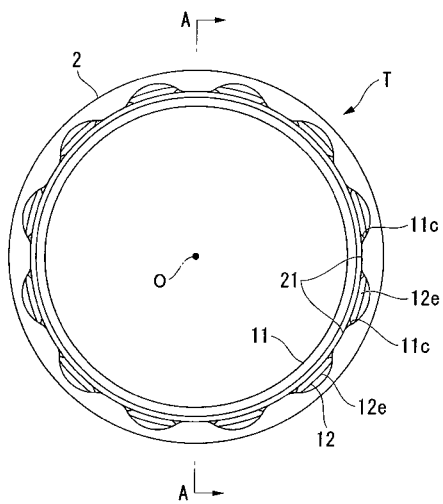
【図 3】



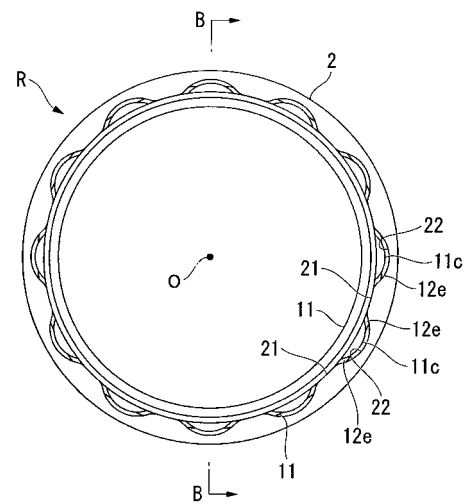
【図 4】



【図 5】



【図 6】



フロントページの続き

Fターム(参考) 3E067 AB81 BA02A BA02B BA02C BA07A BA07B BA07C BB14A BB14B BB14C
BC07A BC07B BC07C DA01 DA03 FA04